

令和6年度第1回東京高輪病院地域協議会 議事要録

1. 日 時 令和6年9月19日(木) 16:00~17:00
2. 場 所 東京高輪病院4階会議室
3. 出席者 地域協議会委員 23名出席(全26名中)
欠席者 笠松所長 大橋管理者 木原副会長

(1) 委員自己紹介：各委員より挨拶

(2) 開催挨拶 山本副院長

当院の役割は地域から必要とされる医療を提供すること。本日の会を通じて地域の皆様がどのようなことを当院へ求めているのかを知る会だととらえています。そのための本日の会ですので皆様の忌憚のない意見を頂きたいと思っております。本日は宜しくお願い致します。

(3) 議題

① 地域包括ケア病棟活動状況について

2023年は地域包括ケア病棟が2病棟稼働であり、2022年はコロナ流行中であったので比較しづらい状況ではあるが、月ごとの変動があり更にウイルスの流行に合わせて変動している。

今年度もコロナが7月に流行り稼働が少し上がったが、今は落ち着いた状況になっている。直接入院の患者の内訳としては、腰椎圧迫骨折やレスパイトや退院調整目的が多いが、最近増えているのは老々介護で介護者の病気や入院で急なレスパイトを要する患者が増えてきている。

高齢で認知のある患者は環境の変化に敏感で夜間せん妄や帰宅願望が強くなる傾向がある。そうした状況を少しでも回避するために、1泊2日、2泊3日などの短期での治験レスパイトを利用させていただくことで、当院の環境を知り安全・安心した入院生活がとれると考えている。

② 救急受入状況について

時間外の患者の推移は今年度4月以降、月に250~300件弱で推移している状況。7月・8月は過去数年間コロナの影響により急激に増加する傾向にあったが、今年度については若干の増加はあったが例年ほどの増加は認めなかった。救急車以外での来院患者の割合も過去数年と比較すると下がっている状況である。理由は発熱患者の減少と多くの医療機関で発熱患者が受け入れられるようになり、患者が分散したことが考えられる。

時間外の入院患者の推移は、今年度に入り月50~60名程で推移している。その内7~8割が救急車での来院患者である。

③ コロナの受け入れ状況について

7月・8月に増加する傾向はコロナ禍から大きな変化はしていない。先にも述べたように多くの医療機関でコロナ患者の受け入れを行っているため、入院患者は減少している。

④ 診療(病々)連携の状況について

当院は高度医療機関の多い区中央部にあり、地域医療構想の取り組みの中で医療機関ごとの役割を明確にし、地域内で連携を強化することを目指して連携協定を締結してきた。主に連携している7病院の他にこの度縁があり山王病院とも連携協定を締結する運びとなり、来月調印式を行う予定である。4月からHCUを開設し急性期と回復期の患者を診る両輪の体制が強化される中で、連携病院からの転院相談は退院調整を目的とした地域包括ケア病棟への依頼が多い傾向にある。

病院機能によって依頼傾向に違いがある。虎ノ門、日赤、済生会、NTTは地域包括への入院相談が多くを占め、一方慈恵、聖路加、昭和からは急性期の相談が多い傾向にある。病院ごとの機能特徴を把握しながら、地域包括ケアシステムの中で当院の役割を果たすべく受け入れ調整をス

ムーズに行う努力をしてきた。

5年ぶりに開催した連携の会に出席頂いた方々や、日々の訪問でのご挨拶の際に感謝やお気遣いの言葉をいただくことが多々ある。しかし依頼件数は年々少なくなっている状況。より当院への相談がしやすい状況を作るべく、病院ごとに訪問しヒアリングを行うなどしているの、いただいた意見の調整を行って参りたい。4月～8月に当院連携室が調整した他院への転院依頼は、済生会8件、NTT3件、慈恵2件、虎ノ門2件、日赤が1件の計16件。連携協定の病院だからこそ前向きに受け入れ頂いていると痛感している。顔の見える関係性から互いの助け合いの意識が年々高まっていると感じられ、今後も可能な限り連携協定病院からの相談には応じていけるよう前向きで積極的な調整に努めていきたい。

⑤ 訪問看護ステーションについて

令和5年度から看護師が3名から4名に増員し、理学療法士も決まった曜日だけの枠であったのが、毎日訪問できる体制に変わり利用者も増えている状況である。今年度の利用状況機付いては、寒かった1月～3月にかけては長期の入院をされる方も多く、4月も訪問件数はかなり少なかったが、また徐々に増えている状況にある。病院付属の訪問看護ステーションであるということや、介護保険の申請の仕方がわからない方の支援も行っていること等から、増えていると考えられる。

老々介護や認々介護が増えてきている実情があり、夫婦だけではなく親子や兄弟でというケースも増えており、双方で導入という事例も増えている。発見が遅れると治療が長期化してしまうということもあり、早期の発見により入院を短期間にして家に帰すということも担っている。

⑥ 23回医療連携の会開催報告

8月30日グランドプリンスホテル高輪にて5年ぶりの医療連携の会を開催した。104の機関191名の方に参加頂いた。沢山の病院、クリニック、高齢者施設と連携をとることは、スムーズで最適な医療を提供するのに重要なことであると捉えている。今回このように顔の見える連携を久しぶりに行えたことは、連携を深めるうえで非常に有意義なことであり、今後も同じように開催できるよう取り組んでいきたい。

⑦ 市民公開講座開催状況について

コロナ禍ではYouTube動画を配信していたが、対面で開催してほしいという声を沢山頂き、5年ぶりに対面での開催をすることとなった。10月26日（土）10時より外来ロビーにて開催。今回のテーマは認知症で20年以上当院の認知症科を支えてきた津本医師の公演と認知症看護認定看護師と摂食嚥下障害認定看護師の公演を予定している。

YouTubeでの配信も継続して行い、手のしびれや形成外科など、新しい配信も予定している。

⑧ JCH010周年記念コンサートについて

JCH0発足10周年記念を記念してコンサートを企画。賛同したメンバーによりオーケストラを編成し、皆様がよくご存じの曲を演奏予定。

⑨ ふたり主治医制について

紹介率は60～65%くらいで推移しているが、逆紹介率が30～40%と低い状態である。日頃の診療は地域の診療所で診ていただき、当院では数カ月～半年の診療の関係を築くのが理想な診療体制であると考えている。入口のデジタルサイネージや院内のポスターに掲示し患者へ啓蒙するとともに、処方のみで通院している患者へ説明し、近くの診療所などを受診していただく試みを開始している。

⑩ 診療科の体制について

消化器内科が4月から手薄であったが7月より2名体制で上下部消化管、肝胆膵の診察ができる医師が着任し、10月からは3人となるのでさらに充実した診療体制となる。

形成外科、婦人科は1人体制だったが4月より2人体制での診療を行っている。外科も10月より1名増え6人体制となり、救急隊からも急性期の疾患をより積極的に受けていきたいと考えている。

意見交換 (◇=外部 ■=内部)

- ◇ 試験的なレスパイト入院というのは保険診療になるのか、それとも自費になるのか。
- 試験的レスパイト入院を含めて、現状レスパイト入院につきましては保険診療が通っている。何かしらの慢性疾患があれば保険診療で対応可能となっている。

- ◇ 港区の救急医療の連絡会で救急医療の応需率について、どこの病院もなかなか元に戻らない低いままだという声があったが、高輪病院は受けられているのか。
- 79～80%程で目標は90%目標にしている。専門外や精神疾患など受けられないが、8割程度を維持している。

- ◇ 町会の公募のページを出しており、地域医療のスペースを作るので広報という形で記載してもらいたい。
- ぜひお願いします。詳細を教えてください。

- ◇ 応需率の話にもあったが東京消防庁の平均よりも高輪病院は上回っているので、引き続き積極的な受け入れをお願いしたい。夏季は救急隊の出動率が100%となりほとんどの救急隊が出払う状況となるが、回転率を上げるためにも病院の滞在時間を短くしたい。冬季も救急が増える時期になるので、応需も早い判断と共に回転率を上げていきたいので引き続き早い判断での受け入れをお願いしたい。

- ◇ 入院困難ケース等含めいつもファーストコンタクトでスムーズに対応していただき大変心強く感じている。訪問看護に関しても高齢者浴断センターは要支援の方が多く直接というのは少ないが、若年性認知症の方のケースなどカンファレンスを持ちながら対応していただき感謝している。

- ◇ 港区の状況を話させてほしい。港区の人口は26万人、高齢者65歳以上は4万5千で高齢化率17%。日本全体は29.3%で港区をはじめ都心は低いといわれている。ですが人口推計上はこのまま増え続けるといわれており、高齢者も増えるという状況が当面続くと考えられる。また、都心部の傾向として後期高齢者のほうが多く、港区は2万4千人である。介護認定者は毎年200～300人ずつ増えており、今年は1万人を超えている。1人暮らし高齢者も9千強いる。高齢者支援センターと組んで高齢者を訪問する取り組みを10年ほど続けているが、今年度より各地区1名ずつ増やし訪問を拡大したところ、8050問題や9050問題などが浮き彫りになってきた。東京高輪病院にもこれまで以上に相談件数も増えていくと思うのでよろしくをお願いしたい。

○次回開催日時について

- ・次回は令和7年3月13日の木曜日16:00開催を予定。

(4) 閉会挨拶 山本院長

本日はお忙しい中当院まで来迎頂きありがとうございました。医師会、行政、地域の皆さんの情報交換できたことは非常に有意義で当院にとって大変ありがたいことです。急性期の疾患に対して早期に対応し、地域包括ケア病棟、訪問看護ステーションを用いて地域の皆様の健康に役立っていくことが役割ととらえています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。